

(1)

慈眼

第18号

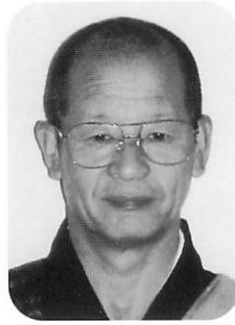
発行所
藤津郡塩田町大字
五町田甲1307 学成院内
TEL 09546-6-2285
FAX 09546-6-2771

日蓮宗佐賀
教化センター
発行責任者
小寺大誠

『発心』

佐賀県修法師会々長

小城町教仙寺住職 亀川学俊



鎮西本山 松尾山光勝寺の膝元に、塔中寺院として、久遠成院日親上人を開山とする教仙寺です。この寺は、先々代、祖父日晃上人が昭和四年中山遠寿院、第再行を成満され、当地宮戸古墳の跡地に宮戸大明神を勧請され、祈祷寺としての基礎を創られました。小生も又、祖父・師父上人と共に、同じ道を歩む事になったきっかけは、「お寺の子は御経ば読まんなば」の言葉でした。当時小生は十四才、それまで師父の御経を聞いた事も無く毎日毎日、近くの山や川で友達と暗くなるまで遊ぶのが日課でした。ある時、師父上人に、知り合いの御上人が来るので、今日は家をあけるなど一喝され渋々と家

に居ると、座敷によばれ、明日から立石の寺へ行ってこいと云われ、何の事か分からずについて返事をしました。今から四十六年前の事である。

当時は自分の寺の宗派も知らず、御経の一句も読めず、「辛い」、「悲しい」、「痛い」の三拍子、師僧の沢山の弟子の中にあつて、一番出来の悪い弟子であつたらう。

とにかく御経を覚えよう、読みかけの御経本を何度も何度も読み返した、師僧も兄弟子も時に厳しく、時に優しく、ある時兄弟子云く、「御経は一文文に正確に」と、毎日毎日が苦になった。苦あれば楽あり、練習の成果あり、方便品・自我偈が読めるようになった。嬉しかった、独り家族を離れ小僧としての自分に目覚めた。

師僧の寺も祈祷寺、これから沢山の御経を覚えるには最適、今は亡き大先輩、辻智彰上人の木柩、御経の口調を見聞きしながら、いつか自分も師僧の様に辻上人の様になりたいと願った。

六年が過ぎ、御世話になった師僧・兄弟子・家族の元を離れ、独り東京の寺へ随身、学校と寺の仕事に追われる毎日、初めて田舎に帰りたいと思った。自分を

見失った、田舎での生活は何だったのかと自分に問う、人生の一大事。法華経では真理を見る事を、「仏知見」と呼んでいる。仏の智慧、すなわち実相を見る目をもつて、困難にあつてもくじけず、心を統一して真の智慧をもつことと教えられました。何事も忍耐、自分がやらねば誰も助けてはくれない。もう一度頑張ろう、どうにか卒業し、荒行を志した。

昭和四十三年中山遠寿院に初行として入行し、初めて修法の道を体験、荒行とは、こんなにも厳しいものかと痛感、行堂の大尊神様を毎日拝し、一生懸命読経している、突然、目の前に尊神様の顔が現れ、小生の頭を押され後に倒された。目を開けながら眠っていたのである。不覚だった、やがて成満の日、辛かった百日間、尊神様の顔がかすんで見える。涙が止まらない成し遂げた喜び、仏道修行に専念しても悟りに近づく事は簡単ではありません。しかし「法華経」では仏教の修行の段階に関わらず、御釈迦様の教えを守り、その教えの真髄に近づく為に希望を失わないなら必ず救われるだろうと説かれています。

今も、小僧時代と同じ浅学非才の小生なれど今日まで沢山の諸先輩上人と、檀信徒に見守られながら、常に我が心と行動を懺悔し出家者として三宝給仕に励み、広宣流布の誓願を心に刻みながら、今年四月二十八日、立教開宗七五〇年を迎えられた事に、報恩感謝し、皆様と共に、正法の灯を照らすうではありませんか。

おやうのん

(かいつぶり)

世に「子を持つて初めて知る親の恩」と言います。法華経は、その真理の形や信仰のあり方を親子のたとえ話でしばしば説かれています。

「一切衆生の異の苦を受くるは悉く是如来一人の苦なり」とお釈迦様は説かれ、日蓮聖人は、「一切衆生の同一の苦は悉く是日蓮一人の苦と申すべし」と答えられました。

お釈迦様や、日蓮聖人は、私達が考え得る親心以上の親心で私達を心配して下さいます。

我が子を思う同じ心で親孝行をし、報恩感謝の心で掌を合わせましょう。



【特集】《日蓮大聖人のご生涯》

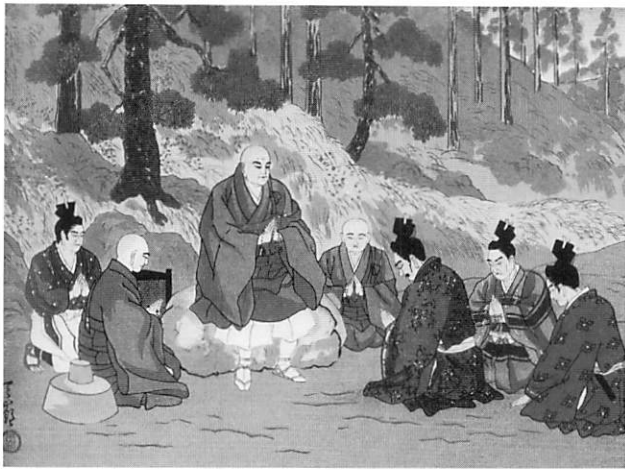
前号より引き続き日蓮大聖人の ご生涯をたどって参ります。

《前号まで》

文永十一年（一二七四）二月十四日、突如として日蓮大聖人の流罪は赦され、三月二十六日、待ちわびた法華経信仰者に迎えられる。二年五ヶ月ぶりで鎌倉の土をふまれました。

《三度目の諫言》

この年の四月八日に、執権北条時宗の招きで幕府に出頭された大聖人は、蒙古の襲来は恐らく今年中であろうと断定され、国家の安全を得ようとするならば、一刻も早く他宗の信仰をやめて、法華経を信仰する事を強く主張されました。



《身延入山》

《身延御入山》

しかしながら大聖人のこの主張も、幕府には何の効果もなく、大聖人は中国の故事に倣われ、隠栖の道を選ばれ、五月十七日に、波木井実長公の招きで、身延山へ御入山されました。

《身延での御生活》

身延山での大聖人は、門下の教導と著述に専念されました。御在山中に認められた御文書は二百九十余篇を数える程です。この中には、『法華取要抄』や『撰時抄』という、宗義に關わる大事な御書もあり、また、師の道善房の追善に捧げられた『報恩抄』もあります。

「昼夜に法華経を読み、朝暮に摩訶止観を談ずれば、靈山浄土にも相似たり、天台山にも事ならず」（『松野殿女房御返事』）と、身延山を法華経の根本道場門下育成の聖地と讃えられ、大聖人の魂魄を永遠に留め置く「棲神の地」と定められて、聖なる山であることを強調されています。

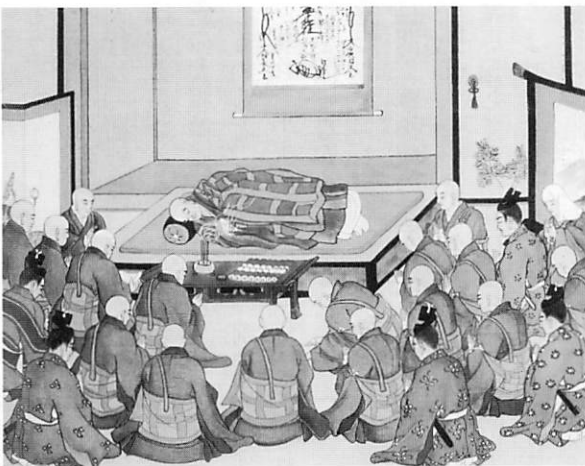
《身延から池上へ》

身延にあつて、弟子や檀越の教導にとめられていた大聖人は、次第に衰えられました。衰弱された心身を癒すべく、弘安五年（一二八二）九月、足掛け九ヶ年住み慣れた身延をあとに、常陸の湯に向われました。病身の大聖人にはこの旅は大変厳しいものであり、武蔵の国は

池上宗仲公の館に留まらざるを得ませんでした。

再起が困難であることを悟られた大聖人は、『立正安国論』の最後の御講義をなされ、六老僧の選定、帝都開教の委嘱をされて、十月十三日辰の刻（午前八時）六十一歳の御生涯を閉じられました。

大聖人の御生涯を偲び、御命日を期して、報恩の誠を捧げる法会が「御会式」です。この御会式に「万灯供養」を行うのは、大聖人の御入滅の時に、桜の花が咲きほこった事に由来します。



《御入滅》

「日蓮さきがけしたり、わとう共、二陣三陣つづいて、迦葉・阿難にもすぐれた天台・伝教にもこえよかし」と『種々御振舞御書』に書かれてありますが、この言葉こそ、日蓮大聖人が現代の私達にのこされた御遺言と言えるのではないのでしょうか。大聖人の遺命を果たすためにもなお一層強固な信仰を続けましょう。

花と葬儀

木下株式会社
平安閣冠婚葬祭互助会



草苑

北佐賀草苑 佐賀市兵庫町藤ノ木1115 30-4040 (0952)
FAX 30-4043
南佐賀草苑本店 佐賀市本庄町大字本庄951 25-1255 (0952)
FAX 25-1088

技術本位

佐賀の老舗

信用本位

辻の堂の仏だんや

(株)本庄仏具総本店

佐賀市堀川町(辻の堂) ● TEL 0952・23-2955(代)

起塔供養

「塔を起して供養すべし」

當知是處

「當に知るべしこの處は」

所以者何

「ゆえはいかん」

即是道場

「即ちこれ道場なり」

《如来神力品第二十一》

「私の家にはまだ故人がいないので仏壇は要りません」「私は分家だからいいですよ」「家が狭くて仏壇なんか置く所がない」等々良く耳にしますが、果たして仏壇とは何なのでしょう。

仏壇とは崇敬の仏像。曼荼羅本尊及び宗祖御像並に先祖の位牌・過去帳を案じ五供（香・華・灯・浄水・茶・飯食）を供え、朝夕礼拝供養し報恩感謝の誠を捧げる壇のことで、亡くなった人を祀る為だけにあってはなりません。

第一に御本尊を中心に祀り、そこが修行の道場になるということです。また先祖というものは本家だけが関係があるのではなく、私達がこの世に生をうけているのは先祖あつてのことですので、分家であらうと大切に祀ることが大切です。

しかし現実には家族の誰かが亡くなつて初めて仏壇を求める人が多いようですし死別という悲しみを縁として、仏様の

教えに出会うことができるのも事実のようです。

この神力品の句は、どこであろうと塔（本尊）を起して供養すれば、自分が居る處は大切な道場であり、靈山浄土と同じである。つまり法華経を信じ、お題目を唱える處はどこでも道場となる。お釈迦様、日蓮大聖人と同じ心で修行し信仰すればどこでも、生活の場もそのまま道場であり、靈山浄土になるわけです。

例えば鋤で耕している田畑が、機械を操作する工場が、パソコンに向き合う事務所が、そして炊事・洗濯・掃除に明け暮れる家庭がそのまま道場になるのです。皆さんの心の内に題目の宝塔を起してお釈迦様、日蓮大聖人、先祖に手を合わせる場（即是道場）、家庭の中心として仏壇を活用し、自分の魂を磨く場、先祖供養の為にもこの神力品の持つ意味をかみしめて、心を磨こうではありませんか。

「お寺へのQ&A」

Qよくお寺での法要や供養の際に「お塔婆」を建てて先祖の供養を致しますが、その意味を教えてください。

A皆さんがよく目にされるのは平たい板塔婆だと思いますが、お塔婆は正式には「卒塔婆」と言い梵語の「ストウパ」を音訳したものです。

そもそもストウパとは、「仏舍利塔」を意味します。これは今から約二千五百年程前、お釈迦様が亡くなられたとき、荼毘に付されたあとの御仏舍利（お骨）をインド各地に分骨安置し、奉られた塔のことです。

当時インドでは半球形の塔の上に日よけの小さな傘が一つ乗っているにすぎませんでしたが、これが中国に伝わって当時の建築に結びつき塔の高さや傘の数が増え、朝鮮を経て日本に伝わった頃には五重塔にまで発展していました。しかし、五重塔を建てるのは容易成らざる事です。そこで板塔婆が作られた次第です。皆さんが今日目にされている板塔婆の上の方に四箇所の刻みをいれて五重にしてあります。

日蓮宗で卒塔婆を建てるのは、法華経法師品や神力品の「起塔供養の教え」に基づいています。

日蓮上人も卒塔婆供養の功德について、「中興入道御消息」（弘安二年、幼くして世を去った姫御前の十三回忌供養の為、故入道の未上人に送られたお手紙の中に、「みまかりぬる幼子のむすめ御前の十三回忌に、丈六のそとばをたてて、其面に南無妙法蓮華経の七字を頭はしてをはしませば、北風吹けば南海のいろくす（魚族）、其風にあたりて大海の苦をはなれ、東風きたれば、西山の鳥鹿、其風を身にふれて畜生道をまぬかれて都卒の内院に生まれん（中略）此れより後々の御そとばにも法華経の題目を頭はし給へ」とあり、このお手紙の内容を要約すれば、「故精靈への功德は無量であり、卒塔婆を建てた人も現世安隠、後生善処は疑いなく、またこの塔にふれ、合掌礼拝した人も功德を得ることができ」と教示されています。このように大きな功德がある塔婆ですので法要の時に建てるのです。年回忌法要などの時に建てる塔婆は、御先祖の供養の為だけではなく、自らの為にもあるのです。

シロアリ駆除

お任せ下さい。45年の信用と実績

(社)日本しろあり対策協会正会員
(有)瀬倉白蟻工業所

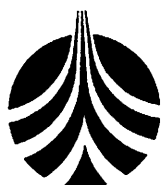
佐賀市水ヶ江5-5-4
☎0952(29)5680

- | | | | |
|---------|-------|--------|-----|
| ・寺院用具一式 | ・前卓 | ・新金物 | ・宮経 |
| ・燈高座 | ・修復 | ・須弥 | ・佛珠 |
| ・仏壇 | ・天燈 | ・美術彫刻品 | ・瑠璃 |
| ・櫃 | ・宗教絵画 | ・神祇用具 | ・琥珀 |
| ・塗物 | ・其 | ・佛像彫刻 | |

手を合わせるころを大切に・・・

山本仏具

佐賀市呉服元町10-12 23-4308
〒840-0824 ☎(0952)



寺院紹介 (十六)

《福岡山 蓮成寺》 れんじょうじ

佐賀市鍋島二一九一



陣内元良住職
じんのうちげんりょう

蓮成寺は佐賀医科大学のすぐ南に位置する場所にあります。

【歴史】

(一) 当山の縁起

蓮成寺は、永禄三年(一五六〇年)肥前国小城郡織島ヶ里杉町の領主杉町備中守信房公により建立され、開山日釋上人をお迎えして山号を福岡山と名付けられました。

杉町信房公は、鍋島藩祖直茂公(一五三七〜一六一八)の頃に活躍した有力武士で、直茂公の公室「陽泰院殿芳林妙春大姉」の妹に当たる「幸祐妙院殿日喜大姉」(位牌には「幸祐妙院日喜大姉」とある)を内室に迎えられました。

鍋島藩二代の鍋島光茂公(一六三三頃〜一七〇〇)は、信房公と内室の「幸祐院」の両名を供養するため、「幸祐院」の第百回忌にあたるのを記念して、延宝三年(一六七五)に蓮成寺の堂宇を改築。

それを証明するものとして、本堂正面に鍋島家の紋章が取り付けられています。

(二) 当山の現状

今より十数年前は、周辺の道路も狭く、境内地南側一帯は大きな堀が東西に配備され、周囲を竹藪や田園に囲まれ、交通も大変不便な場所でした。その様な環境の中にあつて、たまたま佐賀医科大学が誘致、開校されて以来学園都市建設の構想がもち上がり、鍋島土地区画整理事業(昭和五十六年〜平成二年頃)が推進されました。これによって周辺道路も整備されて整然とした街路が出現し、アパート、マンション、個人住宅も増えて、その情景も一新されました。

開創以来、同所に本堂・庫裡・三十番神堂があり、昭和五十三年には本堂・廊下の改築、昭和五十五年には庫裡の改築、境内地・墓地の整備などをへて現在の姿になりました。

【清正公・万部塔】

(清正公)

当山の参道より本堂へ向かい右の奥に「清正大神祇」がお祭りしており、塔の右側面には、文政五年午星(一八二二)二月吉良日と記してあります。

当時の村人は清正公信仰の念が強く、本来ならば、はるばる熊本に行つて参拝すべきところ、道中が大変であったため、当地にお祭りして拝んでいたと考えられます。

(万部塔)

清正公塔の左隣に二本の大きな塔があります。この塔が建立された時期は、十八世紀初めより中頃にかけて、江戸時代

八代将軍徳川吉宗の頃です。

西国に大飢饉がおこり、物価も上がつて各地に打ちこわしがおき、社会不安の増大した時期に、「二天泰平 国土安穩」を祈願して、当山第十五世日達上人が法華經一万部讀誦、松尾山第二十七世日慧上人が二万部を讀誦された記念の塔です。



〈蓮成寺全景〉

【江藤家の墓所】

江藤新平が、明治七年(一八七四)の佐賀の役後、政府軍に捕らえられ佐賀城内で処刑された後、千人塚(現在の森林公園内)に首を晒された三日後の四月十六日、親友相良宗蔵が、江藤新平の遺体を貰いさげを受け、江藤家の菩提寺である蓮成寺に埋葬されました。当時の蓮成寺は交通が不便であったため、近親者、縁故者等の参拝上の便宜から、江藤の死後七回忌の翌年にあたる明治十四年四月、遺骨は蓮成寺から佐賀市西田代の本行寺に改葬されました。

現在は江藤家先祖の墓碑十一基、新平の孫にあたる江藤冬雄夫妻の墓碑がお祭りされています。



仏壇・仏具・寺院用具・寺院納骨堂設計施工
拝む心で尊い品を

梅谷佛具店

TEL 092-271-0456

本店 〒812 福岡市博多区下川端町10-9-0027 (地下鉄中洲川端駅下車) 7番出入口・博多座裏

TEL 0120-39-0456

支店 〒819 福岡市西区周船寺3-9-4-0373

TEL 092-806-7499

通産大臣認可 7産第2930号



株式会社 冠婚葬祭こころの会

三日月町大字久米2084-1 ☎72-3177・FAX72-3633

こころの会指定店

総合葬祭

有限会社

黄城

小城市270

☎73-3938・FAX72-3633